

情報活用能力の育成

I 研究の内容

今日、情報化社会が急速に進む中、学校教育においては、子どもたちに情報活用能力を育成することが急務とされている。同時に児童への指導のためには教員の指導力の向上も求められている。

本部会では上記テーマを設定し、児童の情報活用能力の育成と教員の指導力向上を目指し研究を進めた。

情報活用能力のとらえ方

- ①情報活用の実践力
- ②情報の科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

1 研究の方法

- (1) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った授業実践について研究し、研究協議を行う。
- (2) 主に小学校中学年の社会科を中心に、子どもが学習に利用できるような、東山梨の地域素材をCDにまとめ、デジタル教材集を作成する。
- (3) 部会員の情報活用能力を高めるための研修を行う。

2 研究の具体的内容

(1) 授業研究と検証

- ① 9月2日 第6学年 道徳「電子メールを気持ちよく使うには」

授業者 田邊博幸 教諭（祝小学校）

ア情報教育における目標

- ・メールをする上でのルールやマナーを知り、それらに反するような行動は絶対に行わないという態度を育てる。

イ内容

携帯電話でできることやメールに関するクイズを行うことで児童の関心を高め、メールを使って相手とやりとりをする時に注意しなければならないことを考えるという視点で授業を進めた。

提示された資料から、登場人物の人間関係や友達を励ますメールの内容を確認し、メールの送り手の気持ちと、受け手の気持ちについて考えさせた。送り手と受け手でなぜ気持ちが伝わらなかったのか原因を考え、各自で励ましメールを書き発表を行った。

クラスの中でも実際に携帯を持ち、メールのやりとりをおこなっている児童がおり、約9割の児童が携帯電話のメールをしたいと答えている中で、相手のことを考え、思いやる心を育てることや、メールのルールやマナーなどの情報

モラルについて学ぶ場を設けたことは有意義な実践だった。今後は、家庭との連携を図りながら情報モラル教育を進めることや、発達段階や系統性を考慮したカリキュラム作りなど課題となる点も明らかになった。

② 2月3日 3学年 学級活動「ネット社会の歩き方」

授業者 武井茂 教諭（八幡小学校）

ア 情報教育に関わる目標

- ・携帯電話やインターネットのルールやマナーを知り、自分に適した利用や相手への影響を考えて行動しようとする態度を養う。
- ・個人情報の大切さを知り、自分の情報や他人の情報をもらさない気持ちを養う。

イ 内容

携帯電話やインターネットの便利さや機能を挙げさせ、使用する際のルールやマナーを知ることや、ネットいじめ、個人情報に関することを中から、2つの問題について、「ネット社会の歩き方」のサイトを使い、児童に考えさせたり、確かめさせたりした。

児童がパソコンを操作しながら学習を進めることや、身近な題材が絵や説明を加えて構成されていて、考える場面や気をつけることなど、3年生でもわかりやすいものであった。

(2) 東山梨地区の地域素材のCDデジタル教材化

- 部員が在籍する学校にアンケートをとり、使用状況や改良点などをアンケート調査し、まとめた。
- ・山梨・甲州班ごとに、中学年で利用できる社会科副読本的位置づけというテーマで、昨年まで作成してきたデジタル教材に付加・修正をした。

(3) 情報活用能力を高める研修

フリーソフト（フォトストーリー、ファイル暗号化など）の紹介や活用の仕方の学習会と、各学校で使用している出席簿や時数集計などの環流などを行った。

II 成果と課題

1 成果

- 2回の研究授業を通して、情報活用能力（情報モラル）を高める方法を検証できた。

2 課題

- 情報モラル計画づくりは、今後重要性がさらに増してくるので、実践を積み重ねながら、モデルカリキュラムづくり等に取り組む必要がある。
- 作成したデジタル教材は、授業で活用してもらうための告知や部会員以外の実践等が必要である。

III 研究の成果物

- CDデジタル教材「東山梨地区地域教材 2009年版」